

2・24 全学シンポジウム

「今、「天皇制」は
つくられる」

パネルディスカッション

1989年 2月24日

一橋大学 教職員組合

前期自治会執行委員会

後期学生会執行委員会

院生自治会理事会 共催

△▽△▽△▽△▽△▽ 目次 △▽△▽△▽△▽△▽

天皇の戦争責任……………吉田 裕……………1-

天皇は日本の文化的伝統の中心か? ……池 享……………13-

天皇の葬儀をめぐる憲法問題……………小沢 隆一……………23-

天皇賛美の政治的狙い……………加藤 哲郎……………29-

巻末資料……………39-

はじめに

この冊子は、去る2月24日、教職員組合、三自治会主催で行なわれたパネルディスカッション「今、“天皇制”はつくられる」でのパネラー報告を中心にまとめたものです。

パネルディスカッションは、「大喪の礼」の当日に開催され、一連の天皇キャンペーンへの批判と、天皇問題の本質を明らかにする目的で企画されました。おりしも、同日早朝、学長は日の丸掲揚を決定、それを敢行しようとしてしました。こうした緊迫した状況のもとで、パネルディスカッションは学内外の関心を大いに集め、教職員、学生、市民が230名参加しました。

パネルディスカッションは、最初にパネラー報告と補足があり、続いてフロアからの発言、質疑応答が行なわれました。報告者とフロアとの活発なやりとりは、予定された時間がきてもまだ続く、ほどでした。残念ながらこの冊子では、紙数の関係もあり、前半のパネラー報告と補足だけしか所収できませんでした。また、パネラーの補足は報告が一巡したところで加えさせていただいたので、必ずしも文脈が明確でないところがあります。ご容赦ください。

この冊子を作成するにあたり、社会学部の田崎さんをはじめ多くの組合員の方々の協力を得ました。どうもありがとうございました。

天皇賛美の政治的狙い

加藤 哲郎

(社会学部助教授)

加藤です。私は必ずしも天皇制を専門にやっているものではありませんし、歴史学や憲法学のほうからの問題提起はすでに行なわれましたので、これまで提起されていない視角から、いくつか現在の状況を考えてみるということで、三つばかりの問題をお話したいと思います。

今日すすんでいる事態をどう見るかということでは、いろいろ見方があると思うのですが、私は三つの点から考えているわけです。一つは、経済超大、国日本を舞台にした164カ国のサミットが行なわれている、という考え方です。二つ目は、壮大な危機管理の実験が行なわれている、という見方です。三つ目は、戦後40年、ないしは昭和時代の日本の民主主義というものがどういうものであったのかという質が現在進行している過程の中に映しだされるプロセスである、という三つの視角で問題提起してみたいと思います。

経済大国ニッポンの
164カ国サミット

一つ目、164カ国サミットというと大げさになりますけれども、実際164カ国28機関が今日の葬儀に参列しているわけです。そのうち58の国は元首を送り込んできています。昨日、インドネシアと中国の国交が回復したと発表されていますが、そういうドラスティックな形をとらなくても、さまざまな形での葬儀外交が、国際的な元首同士の話し合い、その他のかたちで行なわれていると考えられるわけです。そこにはキリスト教国、仏教国、

さらにはイスラムの国からも来ておりまして、先ほどテレビを見ておりましたら、その人達は何時間も、寒さのなかで毛布をはおりながら、じっと幕の向こうで神道による儀式が終わるのを待っている（笑い）。非常に奇妙な事態が起こっているわけです。

そればかりではなくて、例えばオランダは、国王を初めは派遣する予定でしたけれども、国内で反対意見があつて、王室を派遣するのを断念しまして、外務大臣ということにしました。ブッシュ大統領が来ていますけれども、一昨日のCNNの世論調査によりますと、ブッシュが日本に行くのは好ましくないという人が60数%、行ってもよいというのが30数%、イギリスのエジンバラ公の出席についても同じように60%ぐらいのイギリス国民が反対している。にもかかわらず、国内にそういう矛盾を抱えながらも、ユーゴのチトーの時以上の、国連の加盟国は159ですからそれよりもさらに多い、世界の国家の代表が集まって、雨の中を耐えているという状態にあります。

これはなぜか。非常に簡単なわけです。要するに、日本が巨大な経済大国になりまして、対外援助でも世界一になった。一人あたりGNPも87年にアメリカの1万8,000ドルを追い越しまして1万9,000ドル以上になりました。88年の統計では2万4,000ドルと世界一になった。ついこの間の日経新聞によりますと、福祉の年金額が何とドル換算でスウェーデンの2倍になったという。もちろんこれも世界一です。ほかにもいろいろ世界一があるのですが、その中でもユニークな世界一というのが、実は世界一の君主国というものです。

世界で約52億の人がいるわけですが、そのうちで君主制の下で暮らしているのはだいたい4億人くらいといわれています。国の数で言いますと、国連加盟国が159で、全部で180ぐらい国家があるのですが、そのうちの29が君主国です。ちょっと数え方は人によって違いますが、30近くの君主国の

中で、一番人口の多い国が日本です。そういう意味で世界一の君主国でありまして、その世界一の君主国が世界一の物質的富をつくり出している。その分け前をもらわなければいけないということで、例えばアフリカについて言えば、アパルトヘイトの南アフリカ連邦以外はすべての国が元首あるいは代表を送り込んできた。

昨日、私のゼミナール出身で経団連事務局につとめている卒業して3年の卒業生がいるのですけれども、彼のところにフィジーの国家代表が海外援助を何とか増やしてくれという話をしに来たそうです。フィジー代表は、もっとえらい人に会いたかったわけですが、あまりにも来ている国の数が多いものですから、首相、外相はもちろん、ずっと下の経団連の20数歳の青年としか会えない。それでもやはり何とかしたいというわけです。つまり、そういう海外援助がらみで日本が国家として行なう大葬に出席しなければならない、という面があります。

同時に、海外援助をもらわなければならないという面ではやって来るんだけれども、今日の日経新聞の社説のいうような「世界中から陛下のご人格をお慕い申し上げて164ヵ国がやって来る」などというものではないわけです。海外の天皇問題に関する論調は『世界』に特集がでておりますし、『朝日ジャーナル』でも3回ほどに分けていただきました。いくつかのパンフレット類も出ておりますので、ぜひごらんになっていただければよいのですけれども、そういうものの中では、天皇の戦争責任、あるいは自粛ムード、これだけ大きく経済大国になったのになぜあんなことをやっているのだろうという話、戦争前の日本の状態に近づいてきたのではないかという声が、いろいろ出ているわけです。

先ほど言った問題との関係でいきますと、例えば、1月8日、天皇の死んだ日のフィガロ（フランスの新聞）に『日本の奇跡の秘密』という解説が出

ているわけですが、**「1950年には世界の1%であった日本のGNPは世界の11%になるに至った。日本の貿易黒字額はこの9年間で50倍になっている、云々。」**として、**「日本人は世界一になるためにはいかなる犠牲にも耐えられる。彼らは世界全体をもものともせず、ただ日本のみを崇拜している。この崇拜の中心に天皇がいる。この日出ずる国においては、すべての工場、製作所、オフィスで全ての労働者、従業員、管理職に至るまでが毎朝の始業前に集まり、日本の国歌、すなわち天皇賛歌を歌うのである。」**こういう筋で理解されているわけです。

今抱えている問題は、例えば竹下首相が何か一言言えばあつと世界中に流れるという状況の下で、日本の国内の経済発展の秘密が天皇制にあったのではないかと不信の眼でみられ、しかもそれは絶対輸出不可能であるということです。大企業の方は、すでにアメリカやヨーロッパを含めて世界中に工場を出しています。世界に日本商品が溢れています。世界金融市場では兜町がウォール街やシティよりも大きくなってきています。しかしそういうところに天皇制を輸出できるか、という問題があるわけです。先ほど言いましたように、世界で40数億の人は君主制なしで暮らしているところに、天皇制の様な奇妙なもののかついで日本の企業は出ていけるかという問題になるわけで、私は、そもそも日本の天皇制にとっての最大の矛盾として、国内的な正統化、国内的統合にはある程度威力を発揮できるけれども、経済力に見合った国際的文化的統合力は持てない、そればかりか摩擦を大きくするというところに基本的な問題を見ます。ですから、現在進行している事態は、それ自体としては矛盾を孕みながら、雨の中に耐えて毛布にくるまっているアフリカの人たちがいっぱいいる、アジアの代表たちがいっぱいいる、ということを見ておく必要があると思います。

壮大な危機
管理の演習

二つ目は、現在すすんでいる事態は、危機管理－クライシスマネジメントの壮大な実験が進んでいる、ということ。危機管理という言葉をお聞きになったことがない方もいらっしゃるかもしれませんが、1963年にでた三矢作戦計画という御存知かもしれませんが、これは、自衛隊の内部で、朝鮮で戦争が起こったという想定の下で、日本の国内体制をどのように整備するのかをいろいろと図上検討、机上検討したものです。全文は発表されませんでしたけれども、1965年に一部が暴露されまして、国会等々で問題になったものです。今日的に言いますと、有事立法の走りであったわけです。その中では、国民動員体制をどのようにつくるか、戦争指導機関をどうするか、民間の防衛機構をどうするか、国土の防衛機構をどうするか、交通の統制をどうするか、運輸の統制をどうするか、通信統制をどうするか、放送および報道管制をどうするか、経済統制をどのようにするか、というような問題を検討していた。

これが1963年なんです、その2年後ぐらいといわれておりますけれども、日本の民間放送キー局は、非常事態放送対策要綱というものをつくりました。そのなかで非常事態というものをどういうふうに言っているかと言いますと、『非常事態の範囲は次のとおりである。天皇、皇后およびこれに準ずる皇室の突事、日本に重大な影響のある戦争の勃発、国内に革命またはこれに準ずる事態が発生した場合、多数の国民にはなほだしい影響を与える天災の発生、疫病の流行等々』。これに基づいてNHKは当然ですけれども民間放送のほとんどのキー局が有事になったらどうしたらよいかというプログラムをつくり始めたわけです。当時のプログラム、および10年ぐらい前のプログラムでは、4日間はCMなしで放送を続けるという話になっていました。しかし、毎年の中身は改正されまして、ついこの間ようやくそのプログラムが実現できるXデイがやってきて、今日もまた、それに準じたことが行なわれてい

るわけです。

ちなみに、吉田茂が1967年10月31日に死亡したのですが、その国葬の日のフジテレビはほとんど今日と同じでした。フジテレビだけなんですけれども、朝からCMを中止して、追悼番組に全体を変更するということがおこなわれました。そういうものの積み重ねの上に、現在の状況が生まれているわけです。

この流れは言わば軍事的な危機管理ですけれども、実は1973年にオイルショックが起こったものですから、1970年代後半に、軍事的には有事立法を計画しながら、今言いました報道とか通信統制等を含めた総合的なクライシスマネージメント—予防的危機管理という構想が、政府によっても作られました。民間のさまざまなシンクタンク、三菱総研とか野村総研でも作られた。そういうものの一環として現在の状況が進められております。それは、企業では革命や戦争のような有事が勃発した場合どうするのか、検問をどのような形で行なうのか、交通規制をどういうふうにするか、そういうことをいろいろと机上の計画で立てていたのです。ところが、皇室の変事以外の3項目、つまり日本に重大な影響を及ぼす戦争の勃発、革命またはそれに準ずる事態、多数の国民にはなほだしく影響を与える天災、これを一番国民の納得を得た上でやれる予行演習、実験というのは、まさに皇室の変事、Xデイであり、今日であるわけです。おそらく、1963年から計画され、20年以上も検討されてきた全てのノウハウが駆使されて、今日、日本社会がどのように危機の下で管理しうるかという実験が行なわれている、というわけです。

戦後民主主義の抵抗力

第三点、しかし、その実験はうまくいくのか、それはプログラム通りにいったのかという問題があります。例えばここでこういう集会が行なわれていることは、危機管理のプログラムに入っているのかという問題があります。国立の小学校では、

ほとんどの学校が旗をあげていない、そればかりではなく、自主登校という形で、父母および教師、児童が集まって反戦のビデオを教室で見ているという話もあります。これは支配層にとってはいろいろな点で予期できなかった危機管理プログラムにとっての誤算です。逆にいえば、戦後民主主義、ないし「新人類民主主義」がある程度の抵抗力を発揮しているということであります。

もっと具体的に言いますと、Xデイの日に2,000万部の号外が発行され、650万部の追悼雑誌が出され、テレビの視聴率は全体として平常プラス8%で53%だった、これが危機管理の流れです。同時に、レンタルビデオからビデオを借りた人が18%、すでに録画していたビデオをとり出して見た人が30%いまして、ほぼ半分はあのCM抜きテレビに飽きたということです。そのへんのデータは、私の資料としてお渡ししてあります。大正天皇のときはラジオの実験放送が始まってすぐでしたから、こんな壮大な実験はできなかったわけです。今回はそれを2,000万部の新聞号外、テレビ各局が特別プログラムを組むという形でやったわけですが、これは必ずしもうまくいかなかったわけです。典型的にはNHK。それまでのプログラムでは朝6時前に死んだならば2日間、6時以後に死んだら3日間やる予定であったわけですが、死んだのは6時38分でプログラム通りに行けば3日間やらなければいけなかったわけです。しかし、1日目はそれほどでもなかったのですが、2日目からは抗議電話が1万8,000本も殺到するという状況のもとで、放送局側もこれ以上もたない、111日間の天皇報道の延長で72時間の戒厳令をしいたけれどもとてももたない、という話になりまして、結局特別番組72時間は断念し48時間で終わってしまったわけです。

それから、よく問題にされることで言えば、警視庁発表で308万人がしたという「ご記憶」、ものによっては600万ともいいます。これも多いと言え

ば多いのですが、だいたい自民党の黨員数の最大値が総裁選挙の時期になると急に増えてはぼ600万、平時のデータを見ますと200万から300万です。ほぼそれに対応する数が、「ご記帳」の数です。それを多いと見るか、少ないと見るかは意見が分かれるところですが、私はあまり多いとは思っていません。それよりは「自粛」の波が広がったことのほうがはるかに重要でありまして、基本的には戦後40年の日本の大企業を中心とした経営組織、それから学校教育が作り出してきたものの「成果」であると思います。お祭りは辞めましょう、自粛しましょう、年賀状は出さないことにしましょう、というような運動が企業や学校から広がったことは、先ほどいった危機管理のプログラムからいえば、成功であったということです。

しかし、そのプログラムからずれた問題がいっぱいできてきました。先ほど言ったビデオを見てテレビの特別番組にはよりつかない、盛り場はネオンを自粛しましたけれども、店の中は大繁盛だったとか、東京では何とかできたけれども大阪では、吉本興業は1月8日に漫才をやって天皇をネタにしていたとか（笑い）、そういうところまでは計算できなかったわけです。実際にプログラム通りには進行できなかった。学生諸君の意識を見ましても、意識調査を集められるだけ集めたものを皆さんに資料としてお配りしてありますけれども、天皇の戦争責任とか、自粛はおかしいとか、こういうところでは非常に健全な意識をもっているわけです。私は天皇が死んだ日、スキー場にいたのですが、スキー場ではニュースは流れましたけれども、みんな一生懸命リフト券を使いきろうとしていました（笑い）。実は、大正天皇のときも似たような状況はあったのですけれども、危機管理というものはプログラム通りには進まないということを示しています。今度はこれに対する対策を、この実験を通して支配の側は考えなくてはいけなくなるわけです。とにかく支配層が考えていた危機管理のプログラムは、Xデー、今日の大喪、そして

この次の大嘗祭から即位の令まで2年ぐらいかけて、浩宮の結婚式もたぶん含めて、数年がかりで大規模な実験が行なわれるということです。

三番目に言いたかった国民意識の定着度、戦後民主主義の定着度を示すのだ、ということの中身は、いま二番目の問題の中で言ったことです。要するに、民主主義の抵抗力があるので、危機管理のプログラム通りには進まないということです。世論調査での象徴天皇制支持は、1960年代くらいからあとはだいたい80%くらいですと変わっていません。従来のデータによりますと、だいたい年をとると共に支持が増えてくる。若いときには不支持だけれども、それがだんだん年をとって支持が増えてくる。その傾向自体は、ついこの間の朝日新聞の調査も含めて変わっておりません。にもかかわらず、天皇に対する尊敬心だとか、天皇は神であるという感覚については、確実に減少しています。私は「ヒロヒトとアキヒトの矛盾」といっていますけれども、新天皇が生まれたことによって、いわゆる神格的な尊敬心といったものは確実に薄くなっていくだろうと予想されます。そうすると国民統合の一手段としての天皇制というものの位置は、必ずしも支配の中心的なイデオロギーになるとは限らない。私はよく言うのですが、京都学派の人達の話よりも大前研一とか長谷川慶太郎あたりが天皇制について何を考えているのかが、実は今後の日本がどういう方向に進むのかということを考える上では重要なのではないかと思います。

京都学派をあまり気にしなくてもよいということの意味ですが、無論、気にするのは気にしたほうがよいですし、とくに歴史学者には大いにやっていただきたいのですが、問題はこういうことです。一つは、池さんのレジユメに安丸さんの論文が引かれておりますけれども、「一見自由で、むしろ欲望自然主義的な原理によって生きているように見える社会が、実は権威ある中心を必要とする選別=差別による秩序の体系である」「現代天皇制は、差別

によって秩序を確保し続けようとする社会の側が求めたものであるからこそ存続しているのである。従ってそれは、……我々個々人が自由な人間であるという外観と幻想の基底で、どんなに深く民族国家日本に帰属しているかを照らしだす鏡であり屈辱の記念碑である」というふうに安丸先生はおっしゃっておられるわけですが、それを私は拙い言葉で言っているわけです。現代日本社会のさまざまな権威主義的なイデオロギーが産みだされる場というものは、必ずしも天皇制イデオロギーが古代から再生産されているという意味ではなくて、むしろ企業社会と学校教育に二大拠点があるのではないか、ということが一つです。

それからもう一つは、典型的には臨教審ですが、いま国際化の時代である、国際化するためには日本人のアイデンティティをもたなければいけないと言っているわけです。世界に出ていくときに日本人としての心を失ってはいけないから、日の丸・君が代、天皇陛下に対する尊敬心が必要だ、太陽みたいな陛下におすがり申し上げなければならない、という話になっているのですが、この原理は確かに精神主義的に企業人間達を働きバチにしている間は機能しうる論理であるかもしれませんが、日本の外に出ていったら裏切られるだろう。そういう矛盾を孕んでいる。従って私はイデオロギーの面でいえば、京都学派の梅原猛さんや上山春平さんの話ばかりではなくて、大前研一さんとか盛田昭夫氏らの天皇制についての考え方をもっと注意深く見ておいたほうがよいのではないか。政治学でいえば、高坂正堯とか榊添要一の話ではなくて、猪口孝のような人がいったい天皇についてどのようなことを言いだすのかを見ていかなくてはならないということです。

毎日
A級戦犯
合記批判
1986.9.18

首相意識的に変身

「A級戦犯合記批判」(以下「合記批判」と略す)は、首相の意識的な変身、すなわち「首相意識的に変身」したことを示している。この変身は、首相の意識的な変身、すなわち「首相意識的に変身」したことを示している。この変身は、首相の意識的な変身、すなわち「首相意識的に変身」したことを示している。

「合記批判」は、首相の意識的な変身、すなわち「首相意識的に変身」したことを示している。この変身は、首相の意識的な変身、すなわち「首相意識的に変身」したことを示している。この変身は、首相の意識的な変身、すなわち「首相意識的に変身」したことを示している。

首相の意識的な変身、すなわち「首相意識的に変身」したことを示している。この変身は、首相の意識的な変身、すなわち「首相意識的に変身」したことを示している。この変身は、首相の意識的な変身、すなわち「首相意識的に変身」したことを示している。

太平洋戦争
1986.9.4

首相「侵略」だつた

毎日の「対外的配慮」より鮮明に

中 京野区門の共同記者会見で、首相は「侵略」だつた、と断言している。これは、首相の意識的な変身、すなわち「首相意識的に変身」したことを示している。この変身は、首相の意識的な変身、すなわち「首相意識的に変身」したことを示している。

「合記批判」は、首相の意識的な変身、すなわち「首相意識的に変身」したことを示している。この変身は、首相の意識的な変身、すなわち「首相意識的に変身」したことを示している。この変身は、首相の意識的な変身、すなわち「首相意識的に変身」したことを示している。

東京裁判は正当

1986. 8. 20
官房長 菅原 俊

毎日「中曾根内閣の統一見解」

東京裁判は正当と認められている。毎日「中曾根内閣の統一見解」が、菅原官房長官の記者会見で、再三述べられた。菅原官房長官は「東京裁判は正当と認められている」と述べた。菅原官房長官は「東京裁判は正当と認められている」と述べた。菅原官房長官は「東京裁判は正当と認められている」と述べた。

菅原官房長官は「東京裁判は正当と認められている」と述べた。菅原官房長官は「東京裁判は正当と認められている」と述べた。菅原官房長官は「東京裁判は正当と認められている」と述べた。菅原官房長官は「東京裁判は正当と認められている」と述べた。菅原官房長官は「東京裁判は正当と認められている」と述べた。

表2-4 天皇の戦争責任

	共同	時事
	1975=84	1976=86
天皇に戦争責任はない	36 25	責任はない、
どちらともいえない	21 42	見分あち
天皇にも戦争責任はある	36 25	全面的にある
関心なし、無回答	7 8	関心なし、無答

西平重喜『世論調査による同時代史』
(ブレン出版、1987年)

首相が講話を発表

1989年1月7日

首相は7日午後、皇居で記者会見を行い、東京裁判の正当性を改めて強調した。首相は「東京裁判は正当と認められている」と述べた。首相は「東京裁判は正当と認められている」と述べた。首相は「東京裁判は正当と認められている」と述べた。

東京裁判の正当性を改めて強調した。首相は「東京裁判は正当と認められている」と述べた。首相は「東京裁判は正当と認められている」と述べた。首相は「東京裁判は正当と認められている」と述べた。

内閣総理大臣の式辞 在位(の)年記念(を)至(り)用(す)

天皇陛下には、大正十五年十二月二十五日御即位、昭和と改元され
て以来、その御即位は六十年の長きにわたらせられ、加うるに、本
日、陛下天皇中御即位の八十五歳の御誕生日を迎えられるました。

陛下に際しこの重なる御慶事を、ここに御んで衷心よりお祝い申し
上げる次第であります。

顧みれば、昭和の六十年は、世界的な恐慌に始まり、不幸なる事
変や悲しむべき戦争、戦後の混乱と不安、脱離からの復興と独立の回
復、比類なき局長経歴成長、そして国際國家への発展と、正に激動の
時代でありました。

陛下は御即位の大札に当たり、内には民心の和合と国運の隆盛を、
外には世界の平和と人類の福祉の増進をいねがうと誓明されました
が、この激動の時代を一貫して、ひたすら平和と人々の福祉とを念願
して来られました。

御心ならずして勃発したまきの大戦において、国民にこれ以上の苦
難を与えるに忍びないとの御一念から、御一身を顧みることなく、戦
争終結の御決断を下されたことは、戦後の隆盛状態にあつた国民を慰
め、励まし、祖國復興への勇氣を与えるため、全国各地を御巡幸なさ
つたあの御姿とともに、国民の心に深く刻み込まれております。

陛下は隆盛の中から立ち上がり、自由と平和、民主主義と基本的人
権の尊重、国際協調を基本理念とする日本国憲法の下で、國家の再建
を目指し、精勵よく難局を乗り越え、内外の歴史に例をみない発展を
成し上げ、今や、我が御は、成熟しつつある民主主義國家として、国
際社会に重きをなすにいたりました。

天皇陛下の御即位は、戦後、統治権の継承者から日本國の象徴、日
本國民統合の象徴へと変化しましたが、國民統合の中心である大切な
柱としてのお立場は変わることなく、陛下と國民を結ぶ象徴と信頼の
紐帯は、歴史の試練を経て、いよいよ固く、人間天皇をお慕ひする國
民の真心は、益々強く、また深くなつております。

四十一年前、日本の平和な國としての真知を得じ、忍び難きを忍び、
万世のために太平を開かんと仰せられた陛下の御善業と、國民のため
にない努力とは、ようやくにしてその実を結びつつあります。

我々は、このことを陛下とともに心から喜びたいと思つております。

陛下、本日に御苦勞様でございます。

今日、我が國をめぐる内外の諸情勢には、なお厳しいものがありま
すが、我々は、日本国憲法の下、天皇陛下を國民統合の象徴と仰ぎ、
歴史の教訓に謙虚に学びつつ、世界に開かれ、益かた文化と活力に満
ちた日本を建設し、世界の平和と人類の福祉のために、更に発展の努
力を怠らず決意を新たにするものであります。

陛下はかつて、「よきこひもかなしむる民と共にして年はすあめき
いまはななむら」と詠まれました。我々もまた、陛下とともに歩んで
きた六十年の激動の道程を万感をこめて頭みつ、心から、天皇皇后
陛下の御長寿と皇業の御隆栄をお祈り申し上げる次第であります。

昭和六十一年四月二十九日

式典委員長
内閣総理大臣

中曾根康弘

第1段階 (670~724)

- 670 庚午年號成立
- 673 天武天皇即位
- 681 宮中金羽扇勝王羅漢觀初見
- 686 持統天皇即位
- 690 11月大嘗會 (羅漢な初見)
- 701 大宝律令
- 702 持統太上天皇火葬

第2段階 (724~770)

- 724 聖武天皇即位
- 746 東大寺大仏殿供養会
- 749 聖武・光皇子出家・「三宝の奴」として大仏に礼拝
- 749 孝靈天皇
- 758
- 760 孝靈太上天皇出家・看經僧道鏡登場
- 764 孝靈太上天皇遺詔→称徳天皇。道鏡→大政大臣禪師→法王
- 770 称徳天皇死

第3段階 (770~858)

- 770 光仁天皇(天智孫)即位
- 802 宮中御斎会年中行事化(正月8日~14日)
- 830 真如寺曼舞会開始(南京三會成立)
- 834 空海宮中曼舞王經抄法を上奏
- 835 後七日御修法開始(正月8日~14日)→宮中真宮院禮政
- 850 円仁延暦寺宮持統において皇威光法開始
- 851 山城法華寺宮院・中国より傳來した太元鈔法を宮中にて修す(年中行事化 正月8日~14日、高時修法あり)

第4段階 (858~1068)

——律令体系の崩壊期、中世國家への移行期——

- 858 淳和天皇即位(9歳)
- 876 讓成天皇即位(9歳) 摂政藤原基経
- 906 讓徳天皇・聖徳時平、延喜在位讓徳退令発布
- 914 讓康時平、右大臣→摂政政治
- 954 したらす神上格事件(民衆的宗教運動としての天神信仰)

第1段階 (1068~1185)

- 1068 後三条天皇親政→円宗寺建立
- 1073 円宗寺法華会開始
- 1078 法華寺大嘗会開始 } 北京三會(14世紀に新絶)
- 1082 円宗寺曼舞会開始 }
- 1088 白河院設開始
- 1099 法皇玉腕の創出(仁和寺門跡)
- 1124 鎌倉天皇大嘗会、大嘗会役(一型平均役)を財源として行われる(史料初見『平安通文』3685号)
- 1156 保元の乱
- 1159 平治の乱後
白河院政初期、「宮中御斎会」、「宮中真宮院」などが『年中行事集』に描かれる。
- 1180~85 治承・寿永の内乱

第2段階 (1185~南北朝期)

- 1192 源朝明仁天大將軍
この頃太元鈔法を修する寺が法華寺から醍醐寺遷性院に移る。
 - 1221 承久の变
 - 1288 伏見天皇即位灌頂を行う(羅漢な初見)
 - 1333 鎌倉幕府滅亡
 - 1333~1336 建武新政
- 14世紀南北朝内乱期

 - 北京三會新絶(王家御在園院消滅)
 - 宮中御斎会新絶
 - 後七日御修法中絶(讓政再興)
 - 南朝天皇、大嘗会を行いません

第3段階 (1368~1467)

- 1368 足利将軍義満→大嘗会奉行をおく
- 1466 後土御門天皇大嘗会(これで中絶)
- 1467 応仁文明の乱始まる

第4段階 (1467~1532)

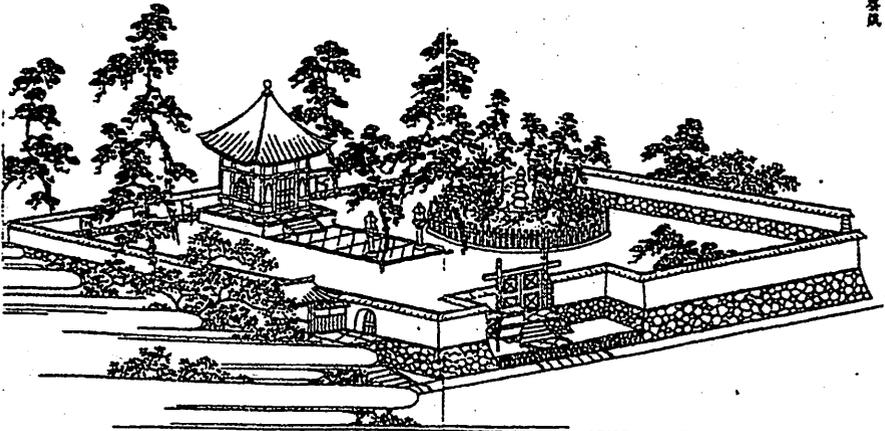
戦国争乱

即位儀・大嘗会比較表

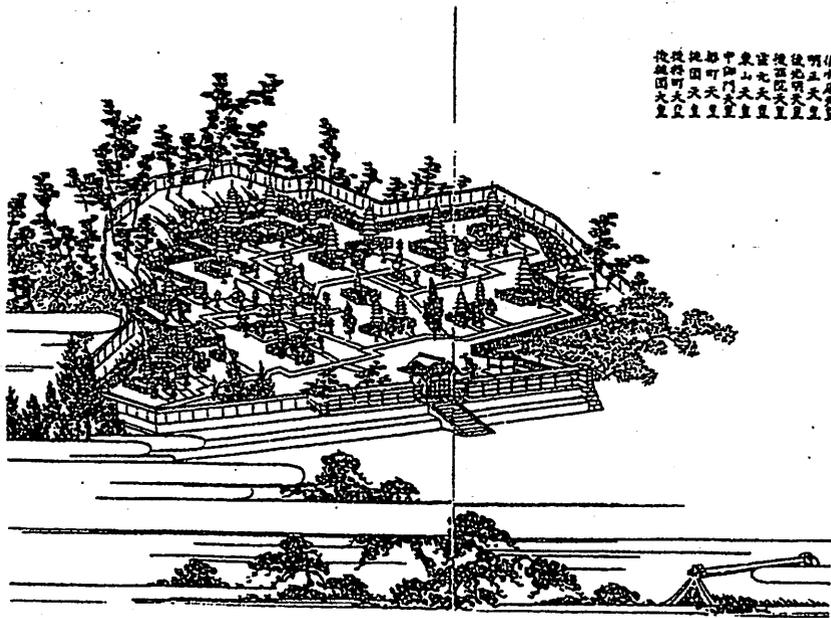
項目	即位儀	大嘗会
イ 年 号	元永(正月)	神永(閏月)
ロ 時 刻	朝	夜政(亥刻~寅刻)
ハ 場 所	大極殿・西堂殿	大嘗田(左記院・ 三基殿)
ニ 段 階	高車座(正座)の より高い段上	八重葎の上の座・ 敷(西堂内の敷)
ホ 皇 族 の 参 加 者	文武百官	皇女と内膳司官人
ヘ 執 任 官 官	重命	なし
ト 参 照	中国に上る天神神 降臨上	なし
チ 神 體 授 受	足部による神體授 受	なし
リ 奉 奠(祝詞)	御加	なし
エ 神 體 の 行 幸	なし	神體御供
ル 高 車	なし	皇朝御會
ヲ 芸 伎	なし	真人舞・御座・ 御座の歌謡など

深草寺宇堂初殿園 御座堂

後深草堂
伏見天皇
後深草天皇
後深草天皇
後深草天皇
後深草天皇
後深草天皇
後深草天皇
後深草天皇
後深草天皇



明使
明使
明使
明使
明使
明使
明使
明使
明使
明使



(小沢 隆一)

○大喪の礼進行予定

予定時刻	区 分	次 第 等	備 考
09:30	大喪の礼御葬列 (國の儀式)	皇親正門を御出発 (国会議事堂正門前、赤坂御所南門前を經由)	
10:10		葬場後門に御到着	
	皇親の儀 葬場殿の儀 (皇直行事)	<ul style="list-style-type: none"> 皇親を皇車籠に奉送、後歩列を列立 (後門を開く) 持旗節 扇持 御拝礼及び御進 御拝礼 退席節 (後門を閉じる)	布列するもの 日像扇持 月像扇持 黄旗 白旗 等 大真附 鳥居 祭官
			大真附、鳥居を撤する 祭官退席
11:55	大喪の礼御式 (國の儀式)	(後門を開く) (内閣官廳長官が開式を告げる)	布列するもの
12:00		<ul style="list-style-type: none"> 照とう (照とうの影に天皇陛下が皇座降下とともに葬場殿前にお進みになる) 拝礼及び中拜 内閣總理大臣 衆議院議長 参議院議長 最高裁判所長官 拝礼 外國元首・中韓使節 参列者(一斉拝礼) (後門を閉じる)	日像扇持 月像扇持 黄旗 白旗 等
12:55		皇親を皇車に奉送、車列を列立	
13:25	大喪の礼御葬列 (國の儀式)	(後門を開く) 葬場殿を御出発 (首都高速道路、中央自動車道を經由)	
15:10		武蔵野墓地後門に御到着	

(注)

(1) 大喪の礼當日、皇直行事として、「皇親當日殯宮祭の儀」及び「開車発引の儀」が皇居において御葬列御出発前に行われ、大喪の礼終了後、同所において「皇親の儀中練所の儀」が行われる。

(2) 儀式の予定時刻等については、今後、変更があり得る。

1/12 発表

御 祝 賀 一 覧

区 分	名 称	期 日	場 所
大 名	侯所地鎮系の鎮	平成元年1月17日(火) (11日目)	侯所
	預宮珍御の鎮	1月19日(木) (13日目)	預宮
	預宮日供の鎮	1月20日(金)~2月23日(木)	預宮
	預宮珍御後一日祭の鎮	1月20日(金)	預宮
	預宮拜礼の鎮	1月21日(土)	預宮
	預宮二十日祭の鎮	1月26日(木) (20日目)	預宮
	追号寺告の鎮	1月31日(火) (25日目)	預宮
	預宮三十日祭の鎮	2月 5日(日) (30日目)	預宮
	預宮四十日祭の鎮	2月15日(水) (40日目)	預宮
	侯所祓祓の鎮	2月23日(木)	侯所
	現代奉安の鎮	"	権殿
	御神当日預宮祭の鎮	2月24日(金) (49日目)	預宮
	御取次引の鎮	"	宮殿
	御給廻の鎮	"	拜場
侯所の鎮	"	侯所	
臣	権殿日供の鎮	2月24日(金)~平成2年1月6日(土)	権殿
	山慶日供の鎮	2月25日(土)~平成2年1月6日(土)	侯所
	御神後一日権殿祭・ 権殿五十日祭の鎮	2月25日(土) (50日目)	権殿
	御神後一日山慶祭・ 山慶五十日祭の鎮	2月25日(土)	侯所
	向成殿の鎮	3月 2日(木) (55日目)	宮殿
	権殿百日祭の鎮	4月16日(日) (100日目)	権殿
	山慶百日祭の鎮	"	侯所
	山慶煇工寺告の鎮	百日祭の儀	侯所
	山慶煇工寺告の鎮	原則として一周年祭の前までに	侯所
	権殿一周年祭の鎮	平成2年1月 7日(日) (1周年目)	権殿
	山慶一周年祭の鎮	"	侯所
臣 御 進 行 事	御舟入	平成元年1月 8日(日) (2日目)	吹上御所
	御楯	1月 9日(月) (3日目)	吹上御所
	預宮祓祓	1月19日(木)~2月24日(金)	預宮
	預宮一般拜礼	1月22日(日)~24日(火)	宮殿東庭
	外交団預宮拜礼	1月25日(水)	預宮
	山慶一般参拜	2月27日(月)か530日閏	侯所

表2-1 天皇即位化論への賛否 (1955~1964)

天皇即位化論に賛成	現状肯定	電		
1955 首相の任命は、普通で天皇	14	今のままがよい	11	15
1955 天皇はもっと権限にたずさわって欲しい	24	今の力がよい	60	16
1956 天皇が政治上の権限を持つように	23	今のままがよい	48	29
=65	12	"	62	26
1960 天皇にある権限を認めろべきだ	23	反対	54	23
=62	19	"	54	27
=63	19	"	55	26
1962 外国に対し、天皇が代弁と憲法に明記	34	反対	34	42
=63	35	"	31	41
1967 外国に対し、日本を代表するのは天皇	41	反対大段	25	22
1966 天皇は象徴、日本的、儀礼的……よくない	2	これ以上	14	18
=67	18	"	22	18
=68	18	"	22	18

広瀬宣

表2-4 天皇の敬称責任

	共同	特 別			
	1975=84	1976=85			
31 天皇に敬称責任はない	36	25	責任はない	36	24
32 どちらともいえない	21	42	区分ある	22	29
25 天皇にも敬称責任はある	36	26	全国的にある	6	8
6 関心なし、無回答	7	1	関心なし、無答	20	18

表2-3 天皇即位は早くか

	毎日	時事	朝日		
	1970=75=79	1973	1983		
早く	19	46	41	67	77
遅く	27	39	29	16	17
他、無答	3	1	3	17	17

"朝日：高止されるだろう

表2-5 天皇に対する国民感情

	広 瀬 宣	NHK	毎日	共同	朝日	読 売						
	1961=62=63=65	1973=76=83	1975	1975=84	1983=86	1986						
尊敬の念*	24	24	24	23	20	29	22	15	23	21	22	16
親しみ感じ	48	41	38	—	—	—	26	58	34	22	27	25
好意をもつ*	—	—	23	20	22	21	—	2	2	—	—	—
何も感じない	29	28	23	23	44	46	26	24	46	41	48	22
反感をもつ	—	—	—	2	2	2	4	1	2	2	2	2
他、無答	6	5	5	2	2	2	7	5	7	3	3	2

	時事	1965	1975	1984		
	1976=86	2(2)	5(1)	5(1)		
尊敬	35	26	神さまのような人	13	13	14
親近感	44	29	国の元首	74	71	70
どうもでない	12	11	国の象徴	6	8	9
関心なし	20	26	一般国民と同じ	5	3	2
無答	7	4	他、無回答	—	—	—

* 広瀬宣：尊敬の念をもっている。共同：尋くて敬い、読売：内々には「敬むべき人」

* 共同：すべて

表2-2 天皇即位のあり方 (1956~1964)

	広瀬宣	読売朝日*	読大	読売	毎日	共同						
	1956=65	1961=73	1966	1965	1968	1970=75=79=82	1975					
天皇の権限強化	23	22	7	7	10	11	2	8	7	6	10	
象徴	49	62	31	27	25	67	24	31	20	17	17	24
天皇即位止*	3	7	5	9	10	10	7	9	10	13	14	7
他、無答	26	24	7	7	5	5	16	2	2	2	2	5

* 1961=73は読売のみ
* 一部の調査は天皇の即位論を中心とす

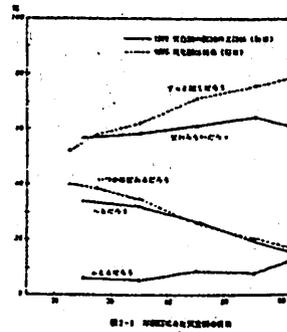


表2-1 NHK調査結果

西平重吉
「世論調査にみる同時代史」

(フレン出版、1987)

一世一元については1978年の脱売の調査では51%、時事の調査では60%が賛成しているだけであり、将来の傾斜さについて、世論も気がついているようである。なお1978年の脱売の調査で元号について5つの意見から2つを選ばせているが、(略記してある)

- 時代の区切りがはっきりする 68%
- 伝統文化で絆合いがある 51%
- 皇室と親近感が深まってよい 38%
- 時代の適原に不便 14%
- 国際的に通用しない 11%
- 国民主催でなく、天皇中心の考え 4%

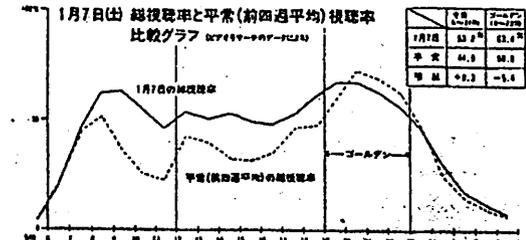
となり、元号に否定的な考えは少い。

表2-7 ふだん元号を使うか西暦を使うか

	広 告 宣		共 同		毎 日		時 事		脱 売
	1961	1974=76=77	1974	1975	1975=79	1977	1977	1978	
元号	22	21	22	22	22	22	22	22	22
西暦	7	11	7	7	11	11	11	11	11
西暦	3	4	3	3	6	4	4	4	4
他	3	1	3	3	3	3	3	3	3

毎日1977年宣紙を出すとき、他は「ふだん」、「千禧年」日宣紙を添えて

「X」テレビとテレビ(1979/3)



日	1月7日	平常	目標
視聴率	23.2%	18.5%	23.0%
差	+4.7%	-	-

天皇特番についての反応 (1979年1月7日)

①特番を見た。2日連続で放送されたが、あなたはどう思われたか。次の中から一つを選んでお答え下さい。

満足程度を次のようにお答え下さい。 (n=300)

満足したように思う	53.7%
満足しなかった	41.8%

②また、内容をどう思われたか。どうお感じになりましたか。次の中から一つを選んでお答え下さい。

	はい	いいえ
内容が良かった	73.0%	27.0%
物足りない感じがした	21.0%	79.0%
放送の場面内容が面白くて、感銘を受けた	37.3%	62.7%

③テレビが、特番放送を契機として、3日間に、あなたにどのような行動を促したか。次の中から一つを選んでお答え下さい。

	はい	いいえ
テレビ番組の視聴率を上げてくれた	51.7%	48.3%
特番放送のビデオを見た	29.7%	70.3%
レンタルビデオを借りた	18.7%	81.3%
ファミコンや、ゲームをして遊んだ	17.7%	82.3%
テレビ番組へ電話をした	9.7%	90.3%
特番放送を録音した	8.7%	91.3%
特番放送の感想を述べた	3.7%	96.3%

④1月7日、8日の両日、テレビがどのような放送の経過を中絶して、特番放送を放送したか。このことを、あなたはどうお感じになりましたか。次の中から、一つを選んでお答え下さい。

通常の放送を中絶して放送した (n=300)

満足したように思う	53.7%
満足しなかった	41.8%

学生新聞に掲載された調査アンケート

この調査は、各大学の学生新聞に掲載されたアンケートによるものである。調査は、各大学の学生新聞に掲載されたアンケートによるものである。調査は、各大学の学生新聞に掲載されたアンケートによるものである。

[現代学生の天皇観]

●筑波学生新聞 (昭. 1.10号)

昭和天皇陛下御即位10周年(昭和24年、1949年)
昭和天皇陛下御即位10周年(昭和24年、1949年)
予レの即位について (複数回答)
皇太子陛下即位の御慶びが深い 49.7% 普通である 23.2%
仕方がない 13.7% 大分嫌う 13.4%
天皇陛下の御即位を喜ぶ 16.5% 中々大層でない 6.7%
天皇陛下即位の御慶びが深い 1.7%
その他 13.8%

昭和天皇の御即位について

大層嫌う	大分嫌う	普通である
13.7%	13.4%	23.2%

●東女互版 (昭. 1.13号)

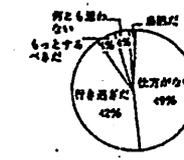
アナーキーの天皇即位10周年14日号、キャンパス新聞

天皇に御即位はあつたらうか
ある 49%
ない 23%
何とも思わぬ 28%

「皇座」ムードについて (複数回答のため102名)



マスコミの報道の仕方について



場合の天皇即位についてどう思うか (複数回答のため102名)



Xデーに際して大学はどのように対応したか

○皇座維持派 A. 皇座維持派 (昭和天皇陛下御即位10周年) B. 皇座維持派 (昭和天皇陛下御即位10周年) C. 皇座維持派 (昭和天皇陛下御即位10周年) D. 皇座維持派 (昭和天皇陛下御即位10周年) E. 皇座維持派 (昭和天皇陛下御即位10周年) F. 皇座維持派 (昭和天皇陛下御即位10周年) G. 皇座維持派 (昭和天皇陛下御即位10周年) H. 皇座維持派 (昭和天皇陛下御即位10周年) I. 皇座維持派 (昭和天皇陛下御即位10周年) J. 皇座維持派 (昭和天皇陛下御即位10周年) K. 皇座維持派 (昭和天皇陛下御即位10周年) L. 皇座維持派 (昭和天皇陛下御即位10周年) M. 皇座維持派 (昭和天皇陛下御即位10周年) N. 皇座維持派 (昭和天皇陛下御即位10周年) O. 皇座維持派 (昭和天皇陛下御即位10周年) P. 皇座維持派 (昭和天皇陛下御即位10周年) Q. 皇座維持派 (昭和天皇陛下御即位10周年) R. 皇座維持派 (昭和天皇陛下御即位10周年) S. 皇座維持派 (昭和天皇陛下御即位10周年) T. 皇座維持派 (昭和天皇陛下御即位10周年) U. 皇座維持派 (昭和天皇陛下御即位10周年) V. 皇座維持派 (昭和天皇陛下御即位10周年) W. 皇座維持派 (昭和天皇陛下御即位10周年) X. 皇座維持派 (昭和天皇陛下御即位10周年) Y. 皇座維持派 (昭和天皇陛下御即位10周年) Z. 皇座維持派 (昭和天皇陛下御即位10周年)	○皇座維持派 A. 皇座維持派 (昭和天皇陛下御即位10周年) B. 皇座維持派 (昭和天皇陛下御即位10周年) C. 皇座維持派 (昭和天皇陛下御即位10周年) D. 皇座維持派 (昭和天皇陛下御即位10周年) E. 皇座維持派 (昭和天皇陛下御即位10周年) F. 皇座維持派 (昭和天皇陛下御即位10周年) G. 皇座維持派 (昭和天皇陛下御即位10周年) H. 皇座維持派 (昭和天皇陛下御即位10周年) I. 皇座維持派 (昭和天皇陛下御即位10周年) J. 皇座維持派 (昭和天皇陛下御即位10周年) K. 皇座維持派 (昭和天皇陛下御即位10周年) L. 皇座維持派 (昭和天皇陛下御即位10周年) M. 皇座維持派 (昭和天皇陛下御即位10周年) N. 皇座維持派 (昭和天皇陛下御即位10周年) O. 皇座維持派 (昭和天皇陛下御即位10周年) P. 皇座維持派 (昭和天皇陛下御即位10周年) Q. 皇座維持派 (昭和天皇陛下御即位10周年) R. 皇座維持派 (昭和天皇陛下御即位10周年) S. 皇座維持派 (昭和天皇陛下御即位10周年) T. 皇座維持派 (昭和天皇陛下御即位10周年) U. 皇座維持派 (昭和天皇陛下御即位10周年) V. 皇座維持派 (昭和天皇陛下御即位10周年) W. 皇座維持派 (昭和天皇陛下御即位10周年) X. 皇座維持派 (昭和天皇陛下御即位10周年) Y. 皇座維持派 (昭和天皇陛下御即位10周年) Z. 皇座維持派 (昭和天皇陛下御即位10周年)	○皇座維持派 A. 皇座維持派 (昭和天皇陛下御即位10周年) B. 皇座維持派 (昭和天皇陛下御即位10周年) C. 皇座維持派 (昭和天皇陛下御即位10周年) D. 皇座維持派 (昭和天皇陛下御即位10周年) E. 皇座維持派 (昭和天皇陛下御即位10周年) F. 皇座維持派 (昭和天皇陛下御即位10周年) G. 皇座維持派 (昭和天皇陛下御即位10周年) H. 皇座維持派 (昭和天皇陛下御即位10周年) I. 皇座維持派 (昭和天皇陛下御即位10周年) J. 皇座維持派 (昭和天皇陛下御即位10周年) K. 皇座維持派 (昭和天皇陛下御即位10周年) L. 皇座維持派 (昭和天皇陛下御即位10周年) M. 皇座維持派 (昭和天皇陛下御即位10周年) N. 皇座維持派 (昭和天皇陛下御即位10周年) O. 皇座維持派 (昭和天皇陛下御即位10周年) P. 皇座維持派 (昭和天皇陛下御即位10周年) Q. 皇座維持派 (昭和天皇陛下御即位10周年) R. 皇座維持派 (昭和天皇陛下御即位10周年) S. 皇座維持派 (昭和天皇陛下御即位10周年) T. 皇座維持派 (昭和天皇陛下御即位10周年) U. 皇座維持派 (昭和天皇陛下御即位10周年) V. 皇座維持派 (昭和天皇陛下御即位10周年) W. 皇座維持派 (昭和天皇陛下御即位10周年) X. 皇座維持派 (昭和天皇陛下御即位10周年) Y. 皇座維持派 (昭和天皇陛下御即位10周年) Z. 皇座維持派 (昭和天皇陛下御即位10周年)
--	--	--

表1 「天皇をどう考えるか」 (昭和24年) 昭和24年 4/2

質問	1957	1958
神である	1.6	1.6
神でないが人間以上の存在	11.2	5.1
一般の主のようなもの	27.5	26.4
全く普通の人間	60.3	67.5

注: 1957年の数字は、加藤周一「日本人とは何か」132ページの表1から抜きだしたもの。1958年の数字は、この9月20日わたしのクラスの学生を対象に行った調査結果である。回答数2197。

表2 「天皇に死を求められたらあなたはどうか」 (昭和24年)

無条件に死ね	0.5%
無条件に一定限度忠誠を尽くす	1
条件によっては死ね	0
条件によっては一定限度忠誠を尽くす	16.8
拒否する	81.7

注: 表1の1958年の調査と同時にやったもの。回答数同じく197。

「無関心大学生」の天皇観

津田塾大のアンケート調査から

例えば、「もし、天皇が何か命令を下したとしたら」という問いに対して、日本国民はその命令に「従わないでよい」と一九二人の人が答えてくるにもかかわらず、同時に二〇〇人が「多くの日本人は従うと思う」と答えている。「従

例えば、「日本国憲法の中に天皇は日本

七人「国家神道」二九人「日本人」二

その自衛隊への攻撃が、天皇陛下

のに押し、()のままでいいと五八人

(サンプル 228)
11月 11日

また、「天皇制をどう思うか」という問いに例しても、「擁護する」五人、「尊敬する」二人、「好感を持つ」五四人と「アラスイメージ」が約三分の一、「あまり好きではない」三〇人、「擁護する」一人と「マイナスイメージ」が約二割、あとの半数以上は「何とも思わない」という無関心層である。皇太子に例しては、「擁護する」〇人、「尊敬する」六人、「好感を持つ」三四人、「何とも思わない」二三人、「あまり好きではない」三六人、「擁護する」七人と、さらに無関心の傾向が高まる。

まず、「天皇に戦争責任はあると思いませんか」という問いに対しては、六割以上(一四五〇名)が「ある」と答えている。「否」は三五八名、わからない(五五〇名)は、何に対する戦争責任かという内容を見てみると、戦前の天皇についてのイメーシが、軍に引きずられたロケマツの存在であった(一二五〇名)形式的にも実質的にも大権の保持者であった(一五三〇名)とでは、多少傾向が違ふ。

「戦前の天皇の果たした役割について、これまで学ば機会がありましたか」という問いに対して、「無知」で入った(約三割)二〇〇名、大学に入ってから学んだ(約二割)四〇〇名とある。しかし、「兵隊上層大(キ)等」層に属する天皇(マセージ)のような本質的な権限は、伝えられて来なかったようだ。この層は、(約二割)四〇〇名。

